

■ 全体講評

午後の問題では、午後 I 記述式試験において公開模試の受験者のレベルが昨年より高くなっています。午後 II 論述式試験は、横ばい状態です。公開模試の午前 I・II 試験では、本試験の過去問題を出題していません。そのため、特に午前 II の難易度は高かったと判断します。

受験者のレベルが上がっていると考える根拠として、一つは問題選択のミスが激減している点です。以前は受験者の 10%前後がミスをしていましたが、前回及び、今回の試験ではほとんどいませんでした。

以上を踏まえると、最近の傾向として、記述式や論述式に体裁の整った解答が多いことから、今回の本試験もレベルの高い試験になることが予想できます。これから説明する解答作成のノウハウを確認して、得点力をアップし、より確実な合格を目指してください。

記述式試験では、次の点に留意してください。

(1) 難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが、難易度の低い設問を確実に得点して、確実に得点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって、時間が余ったら、既に解けていると思った解答も、全ての解答条件を満たしているか、確認するようにしましょう。

(2) 設問の解答条件を全て満足する解答を作成する

解答条件のうち、特に「～の観点から」という条件は、必ず満たすようにしましょう。

論述式問題では、次の点に留意してください。

(1) 計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において、最初に問うている 30 字が、計画やシステムの名称になっていないものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例に倣って修飾することも大切です。

(2) 論文は 1 枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書く、双方のページに字が写るので、論文は 1 枚ずつ書く、とよいです。

その他、留意すべき点を次に挙げます。

- (ア) 禁則処理をする
- (イ) 箇条書きで、節を書き始めない、書き終えない
- (ウ) 「いただく」などの丁寧語は使わない
- (エ) 「思う」は使わない
- (オ) 括弧は、「(以下、～という)」以外では使わない
- (カ) 問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(キ) 略字を書かない

次に午後 I 記述式問題の各問について、講評と採点基準を説明します。

<午後 I>

問1 システム統合の企画

【講評】

問題の量で問題を選択する場合、ページ数や設問数だけでなく、問題を選択するのではなく、表などに小さい字で書かれていないかなどもチェックしましょう。この問題はページ数が多く、かつ設問数も多い問題です。そのため、選択率は問 1 にもかかわらず低いです。実質的な字数では、本試験と比べて特に字数が多いわけではありません。なお、本試験では、表に小さい字で表現したりすることで、字数が多くてもページ数を抑えるケースがあるので、問題を選択する際には注意が必要です。

設問 1 (1) では、解答解説にあるとおり、問題文の「合併後、商品ごとの生産方式を商品マスタに登録する。商品ごとの生産方式については、システム統合の第 1 ステップでは変更しないものとする」という記述から、見込生産方式と受注生産方式は継続することが分かります。この点を踏まえて解答を導きます。

設問 1 (2) は、高い正答率です。

設問 2 (1) では、情報名とシステム名を逆に記入している解答がありました。時間のあるときは解けない解答だけではなく、解けた解答もしっかりと見直しましょう。

設問 2 (2) では、解答解説にあるとおり、在庫管理システムにおいて、出荷指示情報から翌日発送情報を作成していることを、問題文から読み取ってください。

設問 3 では、「新旧の対応情報」という趣旨を解答に盛り込んでいない解答は、厳しいですが不正解としました。

設問 4 は、高い正答率です。「標準 EDI の採用」に関する解答がありましたが、設問文にある「取引条件」という解答条件を踏まえ、厳しいですが不正解としました。

【採点基準】

〔設問1〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、ただし、「商品マスタの生産方式を参照して」という記述のない解答は 2 点、その他は、基本的に 0 点。

(2) 解答例どおりのみ 5 点。

[設問2]

(1) 情報名とシステム名をセットとし。解答例どおりのみ各 5 点、その他は基本的に 0 点。

(2) 理由：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点、その他は、基本的に 0 点。情報名：解答例どおりのみ 5 点。

[設問3]

必要な情報：「対応情報」という趣旨が盛り込まれていることを必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点。その他は、基本的に 0 点。更新内容：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問4]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。

問2 在庫管理システムの設計

【講評】

できるだけ問題文中の字句を使って解答を作成するようにしましょう。設問 3 (1) などで、問題文中に「販売単価変更年月日」というキーワードがあるにもかかわらず、「販売単価設定・変更年月日」など、新しい言葉を作らないようにしてください。解答を作成する際、解答を作成するために必要なキーワードが問題文中にあるかをチェックすることが重要です。問題文中にあれば、それを使って解答を作成します。

設問 1 は高い正答率です。

設問 2 では、設問文で問うている「業務上の改善内容」について解答するようにします。「移動先の倉庫の在庫をプラスする」など、システムの機能に関する解答は、厳しいですが不正解としました。

設問 3 (1) では、問題文に「納入単価変更年月日と販売単価変更年月日は同一日にはならない」などの記述があるために販売単価変更年月日という属性についても納入単価変更年月日と同様に考え、「納入単価、納入単価変更年月日、販売単価変更年月日」という解答を別解とします。

設問 3 (2) では、設問 3 (1) の別解を受け、「商品コード、納入単価変更年月日、販売単価変更年月日」という解答を別解とします。

設問 3 (3) では、設問文において「冗長となる理由」について問うていることを踏まえて解答を導いてください。商品マスタの更新頻度の増加について指摘した解答は、厳しいですが不正解としました。

設問 4 は高い正答率です。

【採点基準】

[設問1]

(1) 解答例どおりのみ各 2 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問2]

販売機会の損失：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点、その他は、基本的に 0 点。業務上の改善内容：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 10 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問3]

(1) 「納入単価、納入単価変更年月日、販売単価変更年月日」という解答を別解とし、別解又は解答例どおりのみ 3 点。

(2) 「商品コード、納入単価変更年月日、販売単価変更年月日」という解答を別解とし、別解又は解答例どおりのみ 3 点。

(3) 理由：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。方法：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。

[設問4]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点、その他は、基本的に 0 点。

問3 顧客管理支援システムの設計

【講評】

設問に書かれている解答条件を全て満足する解答を作成しましょう。特に“～の観点から”という解答条件が重要です。具体的には、この問題では「販売機会の損失を減らす観点から」と「業務効率の観点から」という解答条件を設定しています。これは正解の範囲を絞り込むために設定しています。したがって、この条件を満足していないと判定された解答は、基本的には 0 点となると考えてください。

[設問 1] (1) 高い正答率です。

[設問 1] (2) では、空欄 d などは、解答解説にあるとおり、経験や一般論からではなく、問題文の記述を根拠に解答を導くようにしましょう。

[設問 2] (1) は、高い正答率です。

[設問 2] (2) では、不足ポイントが 0 点ということは不足していないと考えて解答を導くよう解説していますが、問題文にある「上回る」という意味には「予定量以上になる」という意味もありますので、「不足ポイント＝しきい値－累積ポイント－当月ポイント数」を別解としました。

[設問 2] (3) では、設問文にある“販売機会の損失を

減らす観点から”という解答条件を満たす解答を導くようにしましょう。“担当者割当ての解除機能”など、“販売機会の損失を減らす観点から”という条件を満たしていない解答は、厳しいですが不正解としました。

〔設問 2〕(4) は、高い正答率です。

〔設問 2〕(5) では、設問文にある“業務効率の観点から”という解答条件を満たす解答を導くようにしましょう。“不足ポイント数をホームページに表示するため”、“案件の情報提供ができない”など、“業務効率の観点から”という条件を満たしていない解答は、厳しいですが不正解としました。

〔設問 3〕(1) では、一つしか処理を挙げていない解答が目立ちました。設問に“処理順に処理名を答えよ”とあるので、複数の処理を挙げることを前提に解答を導くとよいでしょう。

〔設問 3〕(2) では、処理名が不正解の場合、処理目的は無条件に不正解としました。

【採点基準】

〔設問1〕

(1) (2) 解答例どおりのみ各 3 点。

〔設問2〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 式を変形させた結果が、別解である「不足ポイント＝しきい値－累積ポイント－当月ポイント数」又は解答例どおりの解答のみ 4 点。その他は、基本的に 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (5) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問3〕

- (1) 解答例どおりのみ 5 点。
- (2) 処理名：解答例どおりのみ 5 点。処理目的：処理名が不正解の場合、無条件に 0 点とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。

問4 車載ロボットの開発

【講評】

問題文に書かれている記述から得られる結論を優先して解答を導くことが重要です。設問 4 (2) では、いろいろな注意喚起機能が考えられますが、問題文にある記述から解答を導くことを優先します。解答解説にある

とおり、「長時間の連続運転の検知」が可能な旨が問題文に書かれていますから、これを基に正解を導きます。

設問 1, 設問 2, 設問 3 は、高い正答率です。

設問 4 (1) では、加速と減速は一般的に行うので“急”という表現のない解答は、厳しいですが、不正解としました。

設問 4 (2) では、いろいろな注意喚起機能が考えられますが、厳しいですが、解答例にあるものだけを正解としました。

設問 5 (1) では、「顔写真」のみで「愛称」について漏れている解答がありました。厳しいですが、両方を指摘していない解答は不正解としました。

設問 5 (2) は、高い正答率です。

【採点基準】

〔設問1〕

- (1) 解答例どおりのみ各 3 点。
- (2) 「車外用カメラ」だけを必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問2〕

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問3〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 3 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問 4〕

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問5〕

- (1) 「顔写真」と「愛称」を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点、その他は、基本的に 0 点。

<合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

〔午前Ⅰ・Ⅱ 多肢選択式問題〕

基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強するようにしましょう。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

素晴らしい論文を書いている受験者に、去年不合格になった原因を聞くと、午前Ⅱにおいて足切りになった方が多いことが分かります。午前Ⅱ対策は試験の当日まで、継続するようにしましょう。

〔午後Ⅰ 記述式問題〕

過去問題の演習を中心に、解答を鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満足する解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェックしてみましょう。

〔午後Ⅱ 論述式問題〕

問題文を読解する際に留意する点は、要件定義の内容や設計の内容が本当に問われているのか、という点です。システムアーキテクト試験では、情報セキュリティや全体最適化については設計内容を問う問題が多いですが、その他の出題範囲、例えば、要件定義などでは、設計内容などではなく、施策を中心に問われるケースが多くあります。設計内容なのか、施策なのかを問題で確認した上で、問題文の趣旨に沿って論述するテクニックを適用して解答を作成してください。

試験センター発表の午後Ⅱ講評から、システムアーキテクトは対象業務の特徴を踏まえて業務システムを設計することを、試験では試されていることが分かります。設問アで述べた、システムの特徴、ユーザ特性、業務特性などを踏まえた展開を、設問イでできるようにしておきましょう。時間管理面からは、設問イからウに入るタイミングをしっかりと見計らって、時間内に論文を書き終えるようにして、合格を確実にしてください。

以上